

	所属	役職	氏名	意見の有無	意見
1	国土交通省中国地方整備局 岡山河川事務所	総括保全対策官	末 永 敦	有	<p>P 2 ポイントの追加記載について：自主防災組織については、組織が大ききほど役員等の負担が課題となっています。（１）、（２）に関わらず、可能な限り隣近所など（班単位）顔が見える単位でつくる方が個々の負担が軽減できます。参考：組織が大きくなりすぎると、途中で情報伝達が途切れてしまうなど、役員の責任問題が課題として挙げられています。</p> <p>P 5 ポイントの追加記載について：個人情報の取り扱いを配慮した上で、マイタイムラインなど最小限の情報を自主防災組織が共有しておくことで共助、公助の負担が大幅に軽減できます。また、災害時の安否確認は共助のひとつの手段としてとらえ、自主防災組織に責任を求めない配慮も大切です。参考：安否確認が十分に行き渡らない事も想定して、避難時に玄関に黄色いタオルの掲示を検討している地域もあります。</p>
2	岡山地方気象台	台長	菅野 能明	無	
3	岡山県備中県民局 地域づくり推進課	参事	西田 一宏	有	<p>P 8：6 行目と 7 行目を削除、または、以下のとおり修正する。※地区防災マップ作成については、岡山県備中県民局まちづくりモデル事業を活用する方法があります。→※地区防災マップについては、岡山県備中県民局防災まちづくりモデル事業を活用して作成した例があります。</p> <p><削除または修正を求める理由>備中県民局防災まちづくりモデル事業で行う防災ワークショップは、あくまでも市町におけるモデル的な取り組みを趣旨とする小規模な事業であり、各市町の全ての地区を網羅的に実施するニーズに堪えるものではないため。<参考>当事業で作成する防災マップは完成度が高く、各市町から好評をいただいておりますが、逆にクオリティが高すぎることから、①作業工数が上がり高コスト化していること、②（①により）広域の複数地域をカバーすることが難しいこと、③（完成度の高さからマップ作成の敷居が上がり、）市民による手作りの防災マップ作成の普及を妨げる側面もあること、などの課題も抱えています。以上を勘案していただき、マニュアル修正に反映していただけると幸いです。</p>
4	高梁市消防本部予防課	課長	内田 武彦	有	<p>設立すると、何か面倒くさいことがあるのではないか？市へ報告しなければならないことが、たくさんあるのか？年に何回かは、何かをしなければならないのか？市から、会議への出席を求められるのではないか？補助金の交付は提出するものがたくさんいるのではないか？高齢者のみになって、活動できなくなったらどうするのか？実際に災害が発生したらどうすればよいのか？このような不安があるのではないかと思います。</p>
5	高梁市教育委員会教育総務課	課長	藤井 聡美	無	

6	高梁中央公民館	館長	三村 秀樹	無	
7	社会福祉法人高梁市社会福祉協議会 地域福祉課	課長補佐	横林 史典	有	設立について：会則の一例に加えて、組織図例・連絡網例を加えてはどうか。また、参考として備え物などの例があっても良いのではないか。
8	岡山大学地域総合研究センター 岡山大学大学院社会文化科学研究科	センター長 教授	三村 聡	有	・P1下部：「公助による支援が届かない！」と言い切ってしまうのはちょっと強すぎると思う。 ・P5：災害時の活動のところで要支援者への配慮について記載したほうがより良い。 ・今回マニュアル作成に関わった組織の名称等を巻末に入れることが可能であれば役立つことがあると思う。
9	岡山大学大学院環境生命科学研究科	准教授	氏原 岳人	有	・冒頭：設立することの意義を、住民目線で、明確にわかりやすく記載してください。（設立すると、こんな良いことがあるんだ。）というメリット。文章中に所々書かれています。簡条書きか何かで目立つように記述してください。 ・3. (2) について：「活動目標を明確に設定した」他組織の事例はありませんか？記述が抽象的ですので、具体例があればよいです。 ・4. と5. の順番：順番を入れ替えた方が自然ではないでしょうか？「平常時」→「災害時」という流れ。そして、平常時の活動が災害時の活動とどのようにリンクするのか、わかりやすく図などで整理してもらえるとよいです。 ・4. 災害時の活動について：説明が少ないので、災害時に、実際にどのようなことをするのかイメージしにくいかもしれません。 また、こちらも前回会議で申しましたが、このマニュアルをどんどんアピールしていくことが必要ですね。
10	日本防災士会岡山県支部	会員	神田 敬三	無	
11	北山町内自主防災会	会長	中村 光男	無	
12	奥万田町自主防災会	会長	三峰 守	無	
13	高梁市消防団備中分団	機能別団員	新倉 淳	無	
14	高梁市消防団	副団長	加藤 浩之	有	全般的なことになりますが、消防団が自主防災組織の中に組み込まれることの無いように配慮をお願いします。 災害時には、消防団員は各種活動にあたりますので、当然、自主防災組織等との連携は必要不可欠になりますが、指揮命令は消防団長から統一しなければ活動現場に混乱が生じますので、ご理解をお願いします。

15	高梁市消防団	部長	三村 繁美	無	
16	一般社団法人高梁青年会議所 未来創造委員会	副委員長	吉原 洋介	無	
17	株式会社吉備ケーブルテレビ 報道制作部	部長	蜂谷 潔	無	
18	高梁市民生委員児童委員協議会	会長	角銅 勇二	有	<p>直接被害を受けられた災害現場とそうでない地域との温度差が、まだまだ有り。自助・共助の意識を高める意味において、コミュニティの向上最大のテーマ地域での防災訓練に幅広い世代の理解協力を得られるように努める。</p> <p>子供達が参加すれば、次世代の保護者の方も参加する事で、防災意識・コミュニティの向上する事で自助・共助が急務。</p> <p>より多くの地域防災組織が、立ち上り、組織同士のつながりが出来ればいい。</p>